



[広報用画像1] 三井本館解体工事現場写真。技術者と職人が記念撮影 大正15年(1926)、三井文庫蔵

**MODERN JAPANESE ARCHITECTURE:
CHALLENGES IN CONSTRUCTION TECHNOLOGY**

2015. 10.31 SAT - 12.27 SUN

プレスリリース

[展 覧 会]

**近代建築
ものづくりの挑戦**



公益財団法人 竹中大工道具館
TAKENAKA CARPENTRY TOOLS MUSEUM

「近代建築 ものづくりの挑戦」展
〈記事掲載・放送紹介のお願い〉

わが国唯一の大工道具をテーマにした博物館、竹中大工道具館（神戸市中央区）では2015年10月31日（土）から12月27日（日）まで、「近代建築 ものづくりの挑戦」展を開催いたします。

明治、大正、昭和。日本が大きく変わった時代。建築も西洋からもたらされる新しい技術でつくることが求められました。職人や技術者たちはそれに果敢に挑戦し、短期間のうちに習得して、近代化を成功させます。その過程でどのような技術革新があり、それがどのように建築を変えていったのでしょうか。本展では建設会社や大学等に残された貴重な資料を通して、その歩みを振り返ります。

普段見ることのできない貴重な資料を多く展示いたします。ぜひとも貴媒体にて広くご紹介くださいますようお願い申し上げます。

公益財団法人竹中大工道具館

〔広報用画像2〕 錦絵『東京名所 海運橋五階造真図』

二代清水喜助施工、一曜斎国輝筆、明治5年（1872）、清水建設蔵



《展覧会の見どころ》

- ・ これまでほとんど公開されることのなかった大手建設会社所蔵の貴重な歴史資料が多く出品されます。
- ・ 建築家の活躍や様式表現に注目されがちだった近代建築の歩みを、「材料」「構造」「施工法」などものづくりの視点から振り返ります。
- ・ 難しくなりがちな技術的内容を大型模型や映像、触れる展示品などで親しみやすく解説します。

第1章 建築の文明開化

—棟梁とお雇い外国人の活躍

文明開化により新たな時代を迎えた日本。西洋建築の導入により、建築のあり方が大きく変わり始めます。進取の精神をもった棟梁たちのチャレンジの姿を、わずかに残る資料を通して、ものづくりの視点から具体的に紹介します。

第2章 歴史主義との格闘

—建築家と請負業の登場

本格的な西洋建築を日本人自身でつくろうと建築家教育が始まります。また新たな建築に合わせて新材料の生産や大規模工事を請け負う近代的な建設会社が勃興し始めます。その変化を美しく彩色された図面や各社創業史料をもとに紹介します。

第3章 鉄とコンクリート

—技術革新が建築を変える

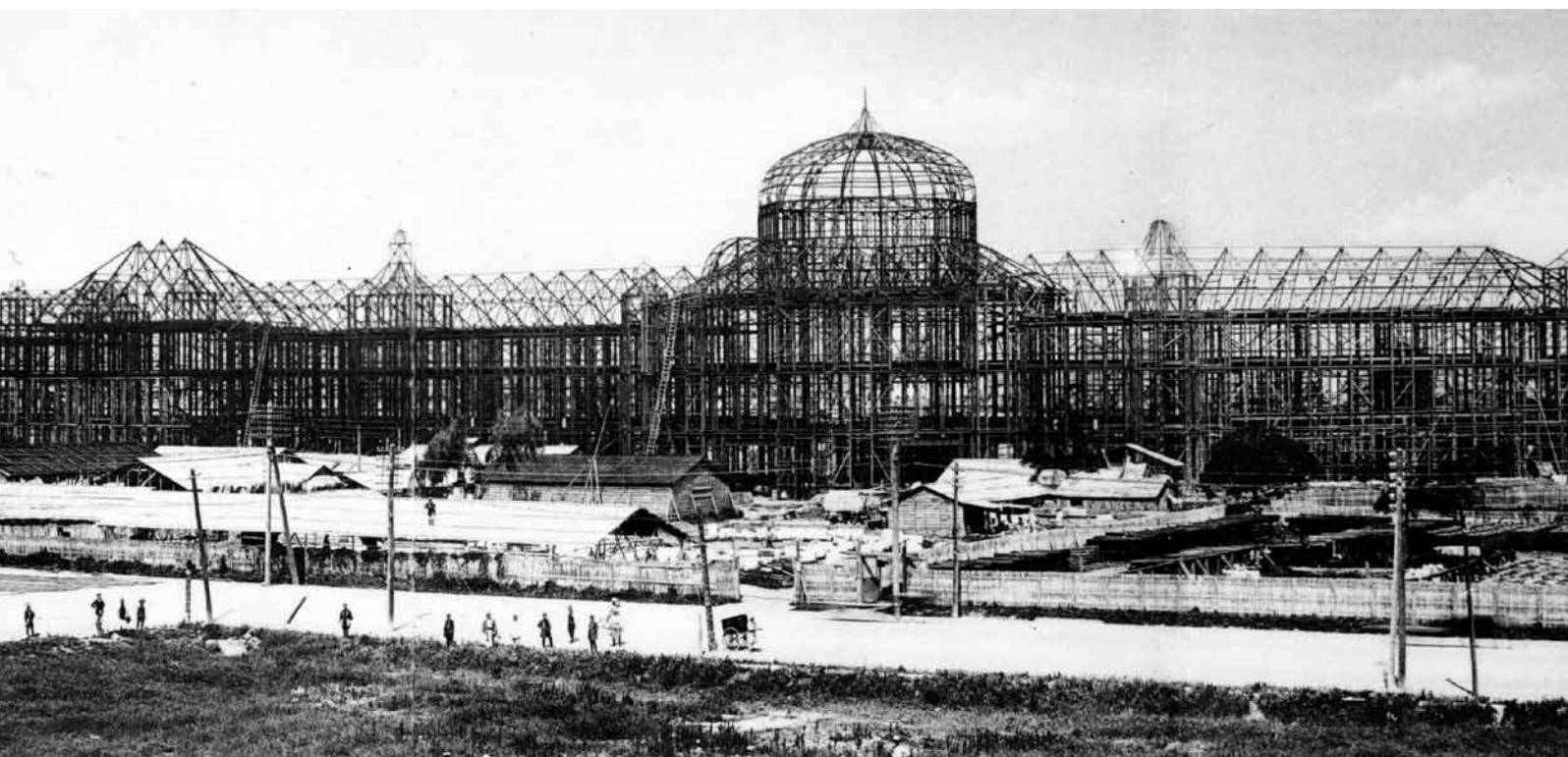
明治の末から建築の作り方を根底から覆す鉄の技術が日本の建築界を襲います。鉄骨造と鉄筋コンクリート造という二大技術革新を、鉄骨部材や配筋模型などの実物資料に、豊富な映像と写真を加えて紹介します。

シアターコーナー

—映像で振り返る近代建築

昭和初期に竣工した名建築、東京の明治生命館（1934）、大阪の大阪瓦斯ビルディング（1933）の工事を記録した貴重なモノクロ映像が残されています。会場内のシアターコーナーで解説付きで上映します。

工事中の東京駅 明治44年（1911）、大林組蔵



《主な展示品》



[広報用画像 3]

為替バンク三井組柱頭

明治7年（1874） 清水建設蔵

海運橋の三井組を第一国立銀行として国に譲渡したのち、改めて三井組の本拠地として駿河町に建てられた建物で、同じく二代清水喜助の設計施工になる。建物は明治30年に取り壊されたが、後に東京赤坂の寺院でこの柱頭が植木鉢のように使われているのを建築史家・堀越三郎が発見し、清水建設に寄贈した。アカンサスの葉を模した、西洋古典建築におけるコリント式の形である。

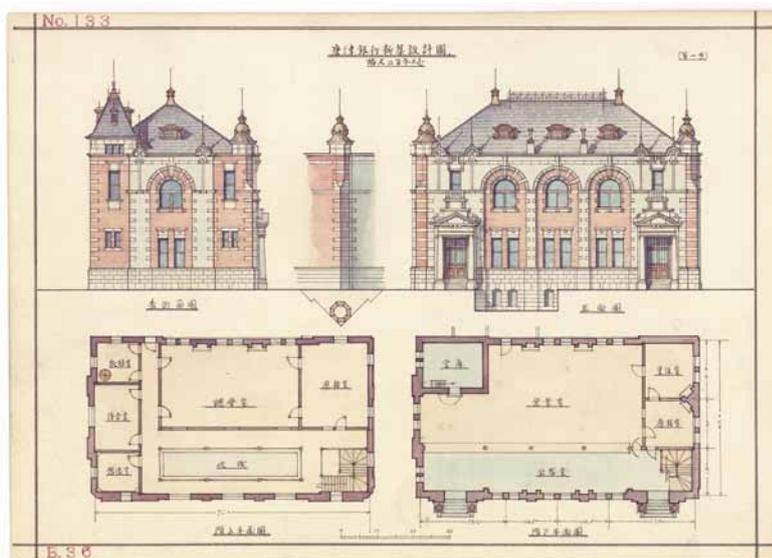


[広報用画像 4]

第一国立銀行鑄造模型

昭和5年（1930） 清水建設蔵

二代清水喜助が手がけた擬洋風建築の代表作。もともと三井組が新たに創設する銀行のために東京・海運橋に建てたものだが、政府が買い取って第一国立銀行とした。木骨石造2階建ての建物の上に、複雑な屋根を重ねた塔をのせており、骨格にも細部にも洋風と和風の要素が混在する。これは五度にわたる計画変更で洋風と和風の間を揺れ動いた結果としての、意図的な折衷であった。文明開化を象徴する建物として親しまれたが、明治31年に惜しまれつつ取り壊された。



[広報用画像 5]

清水組彩色図

明治38年（1905）～大正12年（1923）、清水建設蔵

B4判よりやや小型のワットマン紙に、烏口と面相筆によって墨を入れ、水彩絵具で彩色を施した精緻な設計図。銀行、オフィスビル、商店、学校、工場、個人住宅などさまざまな用途の建物が描かれている。縮尺は、室内装飾・家具図を除いて、すべて1/200に統一されている。これらは、設計部の前身である製図場の技師（設計者）や技手（技師の下で設計を行う者）、製図工たちの手によって描かれた。自らの創作活動の記録として、また顧客や後進たちへの参考資料として使われた。



第一銀行京都支店 化粧煉瓦

明治 39 年（1906） 舞鶴市立赤れんが博物館蔵
設計：辰野葛西建築事務所 施工：清水組

辰野金吾が東京帝国大学を辞して設立した設計事務所の最初期の作品。赤煉瓦に白い石を織り交ぜたフリークラシックの形式は、辰野金吾が多用したことから「辰野式」とも呼ばれるが、その最初期のものでもある。目地は、カマボコ状にふくらませる覆輪目地という技法が使われている。大正 8 年に清水組の設計施工（設計担当田辺淳吉）により増築が行われた。



[広報用画像 6]

三越本店本館鉄骨柱脚

大正 3 年（1914） 清水建設蔵

設計：横河民輔・中村傳治 施工：横川工務所
竣工：大正 3 年（1914）、昭和 2 年（1927）改装

東京日本橋にある三越本店は日本初の大規模百貨店として知られる。設計はアメリカでデパート建築を学んだ横河民輔が率いる横川工務所。大正 12 年（1923）の関東大震災にて被害を受けたものの、補修と増築を重ねて現在に至る。この柱脚鉄骨部材は、竣工当時から平成 20 年（2008）の免震レトロフィット工事までのおよそ 100 年間、建物を支え続けた。サビ防止のため塗料でコーティングされている。



[広報用画像 7]

枢密院配筋模型

大正 10 年（1921）、京都大学蔵

設計：臨時議院建築局 矢橋賢吉、縮尺：1/20

枢密院とは戦前における天皇の最高諮問機関である。昭和 22 年に廃止されたが建物は皇宮警察本部として残る。国会議事堂建設（昭和 11 年竣工）のための試作的作品と言われ、外観の構成などが似ている。鉄筋コンクリート造で、外装は人造石貼り、屋根はスレート葺きである。この模型は鉄筋の配筋が精巧に作られており、車寄の列柱と梁の一部には鉄骨が使われている。一階平面には室名が、柱筋には番付が書かれていることも興味深い。大正 11 年（1922）に京都大学が購入した。

《記念イベント》

「技と心」講演会

「ものづくりの近代建築史」

近代建築というと、建築家の活躍やさまざまな様式・表現の移り変わりなどに目を奪われがちですが、それを支えていたのがさまざまな技術です。材料・構造・施工法などの革新が、建築にどのような変革をもたらしたのか。今年の講演会は建築学者の内田祥哉氏と建築史家の藤森照信氏をお招きし、近代建築をものづくりという視点から語っていただきます。

名 称 = ものづくりの近代建築史

日 時 = 2015年11月8日（日）13:00～15:30

場 所 = ラッセホール大会場（神戸市中央区中山手通 4-10-8）

※神戸市営地下鉄「県庁前駅」より徒歩5分

講 師 = 内田祥哉（東京大学名誉教授）、藤森照信（東京大学名誉教授）

定 員 = 当日先着 200名（無料・申込不要）

講師プロフィール

内田祥哉（うちだよしちか）

1925年生まれ。東京大学名誉教授。専門は建築構法。著書に『プレファブー近代建築の主役』、『建築生産のオープンシステム』、『日本の伝統建築の構法』、『建築家の多様』ほか。設計作品に佐賀県立博物館、佐賀県立九州陶磁文化館などがある。



藤森照信（ふじもりてるのぶ）

1946年生まれ。東京大学名誉教授。専門は近代建築史・都市史。著書に『明治の東京計画』、『日本の近代建築』（上下）、『天下無双の建築学入門』ほか。近年は建築家としても活躍しており、設計作品に神長官守矢史料館、高過庵などがある。



[広報用画像8] 講師顔写真

【会場のご案内】

ラッセホール

神戸市中央区中山手通 4-10-8 TEL: 078-291-1117

- ・神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、徒歩5分
- ・JR・阪神「元町駅」下車、徒歩8分
- ・JR・阪急・阪神・神戸市営地下鉄「三宮駅」下車、徒歩15分



第75回「技と心」セミナー

「建設会社設計部がきずいた世界」

近代的建設業が成長してくるなかで、企業内に設計を専門的に担当する部署が形成されます。設計と施工を一貫して遂行する体制は、クライアントとの結びつきにおいても、建設技術への態度においても設計專業組織とは異なる建築世界を広げていきました。その足跡をたどります。

日 時 = 2015年12月5日(土) 13:30 ~ 15:00

場 所 = 神戸芸術センター 会議室

講 師 = 石田潤一郎(京都工芸繊維大学教授)

定 員 = 100名(要申込み。参加費無料)

申込方法(締切:11月13日(金))

◎ホームページ(1フォームにつき2名様まで)

当館ウェブサイト(<http://dougukan.jp/>)セミナーページの申込フォームをご利用ください。

◎往復ハガキ(ハガキ1枚につき4名様まで)

【往信用裏面】①セミナー番号 ②お名前(フリガナ)参加者全員分 ③郵便番号・住所 ④電話番号 【返信用表面】宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。裏面は未記入のこと。【申込先】〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館「技と心」セミナー係



[広報用画像9]
清水組の製図場 (大正初期、清水建設蔵)

見学会

「神戸塩屋の近代建築を巡る」

日 時 = 2015年11月28日(土) 13:00 ~ 16:00

見学先 = ジェームス邸・旧後藤邸・旧グッゲンハイム邸

定 員 = 30名(要申込み)

参加費 = 1500円

申込方法(締切:11月6日(金))

◎ホームページ(1フォームにつき1名様まで)

近代建築展公式サイト(<http://www.dougukan.jp/modern>)の申込フォームをご利用ください。

◎往復ハガキ(ハガキ1枚につき1名様まで)

【往信用裏面】①イベント名 ②お名前(フリガナ)③郵便番号・住所 ④電話番号 【返信用表面】宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。裏面は未記入のこと。

【申込先】〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館 近代建築展イベント係



[広報用画像10] 旧グッゲンハイム邸



竹中大工道具館外観

《展覧会概要》

名 称 = 近代建築 ものづくりの挑戦

会 期 = 2015年10月31日 [土] ~ 12月27日 [日]

会 場 = 竹中大工道具館 1F ホール

〒 651-0056 神戸市中央区熊内町 7-5-1

TEL : 078-242-0216 FAX : 078-241-4713

開館時間 = 9 : 30 ~ 16 : 30 (入館は 16 : 00 まで)

入 館 料 = 一般 500 円、大高生 300 円、中学生以下無料、

65 歳以上の方 200 円

※常設展観覧料を含む

主 催 = 公益財団法人 竹中大工道具館

後 援 = 神戸新聞社

特別協力 = 清水建設、竹中工務店

資料協力 = INAX ライブミュージアム、大林組、鹿島建設、
京都大学、JR 東日本、大成建設、東京大学、日本
建築学会、一橋大学、法務省、舞鶴市立赤れんが
博物館、三井文庫、三菱地所、三菱地所設計、明
治安田生命、早稲田大学 他

公式サイト <http://www.dougukan.jp/modern>



竹中大工道具館 1F ホール



〈アクセス〉

山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約 3 分

神戸市営地下鉄「新神戸駅」北出口 1 または北出口 2 より
徒歩約 3 分

神戸市バス 2 系統・18 系統「熊内 6 丁目」下車徒歩約 2 分

〈お問い合わせ〉

「近代建築 ものづくりの挑戦」展広報事務局 (竹中大工道具館内)

〒 651-0056 神戸市中央区熊内町 7-5-1 TEL : 078-242-0216 FAX : 078-241-4713 E-mail : modern@dougukan.jp

▲ FAX 078-241-4713

(E-mail: modern@dougukan.jp)

竹中大工道具館「近代建築 ものづくりの挑戦」展 広報事務局 行

「近代建築 ものづくりの挑戦」展 画像使用申込書

- ▶ 画像データ (JPEG) をご提供いたします。下記記入欄にご記入のうえ FAX またはメールにてお申込みください。
画像データをメールにて送信いたします。
- ▶ 読者プレゼントとして本展図録 5 部または当館招待券ペア (2 枚) 5 組を提供することができます。
- ▶ その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。

媒体名		
掲載予定日		
画像送付先	貴社名	
	ご担当者名	
	E-mail	
	ご住所	
	電話・FAX	
画像名 (番号に✓)	<input type="checkbox"/> 1	三井本館解体工事現場写真
	<input type="checkbox"/> 2	錦絵『東京名所 海運橋五階造真図』
	<input type="checkbox"/> 3	為替バンク三井組柱頭
	<input type="checkbox"/> 4	第一国立銀行鑄造模型
	<input type="checkbox"/> 5	清水組彩色図
	<input type="checkbox"/> 6	三越本店本館鉄骨柱脚
	<input type="checkbox"/> 7	枢密院配筋模型
	<input type="checkbox"/> 8	講師顔写真
	<input type="checkbox"/> 9	清水組の製図場
	<input type="checkbox"/> 10	旧グッゲンハイム邸
読者プレゼント	図録	招待券
	部	組

- ・画像をご使用の際はご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさないでください。
- ・掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局まで FAX 送信ください。
- ・お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに 1 部ご寄贈願います。

(お問い合わせ先)

「近代建築 ものづくりの挑戦」展広報事務局 (竹中大工道具館内)

〒651-0056 神戸市中央区熊内町 7-5-1 TEL: 078-242-0216 FAX: 078-241-4713

e-mail: modern@dougukan.jp